

マンモグラフィ 読影試験



渡島医師会
望ヶ丘医院

た なか やす お
田 中 慈 雄

2023年3月、北海道で3年ぶりに検診マンモグラフィ読影認定医師の更新のための読影試験が実施され受験してきた。5年に1度更新試験を受けなければ認定資格を失うのであるが、もう何回目になるだろうか。

平成5年（1993年）に出身大学の放射線医学教室に入局してから今年で30年になる。思い起こせば、平成一桁のころに行っていた検査で、今でもやっているのだろうか、と考えるものがいくつかある。リンパ管造影、唾液腺造影、乳管造影なんてどうなったのだろうか。「リンパ管造影が有効だった〇〇の症例」なんていうような演題も見なくなったので、きつともうやってないのではないかと思う。その当時から、この検査は無くなるだろうな、と思っていたものにマンモグラフィがあった。あれから20年以上経つが、まさかその読影認定試験を受ける、などということは当時は思いもよらなかった。

マンモグラフィとは乳房のレントゲン検査の際に行われる技法で、軟線撮影の一種である。軟線撮影は字数の関係上、詳しい説明は割愛するが、乳房の他、甲状腺、軟部組織、皮膚など主に体表面に近い部分の観察に用いられる技法である。高圧撮影の代表である胸部単純撮影では正常では皮膚はほとんど映らず、軟部組織もボヤっとした感じで認められている。当然乳房もボヤっとした感じになるので、これでは診断では役に立たず、低圧撮影（軟線撮影）によって、乳房の皮膚や軟部組織を可視化して異常を診断するのである。皮膚の異常も含めてわりと細かいものまで描出する。乳癌の診断では微小石灰化が問題になるくらいなのだから。なので、フィルムのゴミも映る。皮膚のしわだって線状影として描出される。乳房写真も数を見ていくとゴミやしわなのか、あるいは病変なのかわかってくるのだが、見苦しいことこの上ない。私の上司は、ゴミが写っている写真を世に出すことは放射線科医の恥と知れ、と常々教育しており、もちろん自分が常勤している病院であれば、ゴミだらけの写真などを世に出すことはない。しかし、アルバイト先で読影のみしている施設などでは、正しいこととはいえ、うるさいこと言うとクビになっちゃうかもしれないので、あまりうるさいことは言えず、ゴミの写っているマンモグラフィを読影することはあった。わりと被曝線量も多めである。また、日本人の乳房は総じて乳腺残存が多く、マンモグラフィでは診断しづらいことが

多い。傾向として、欧米人の乳房は大きくて中身が脂肪性なので、癌があってもマンモグラフィでわかりやすいが、日本人の乳房は小さくて乳腺組織がギュッとつまっているの、乳癌があってもわかりにくい。マンモグラフィは乳房を挟んで撮影するが、挟む乳房もちょびつと、ということもある。ゴミだらけのフィルムに乳腺がちょこつと映っている写真を見ながら、この検査はいずれ無くなるだろうなあ、と思っていたものである。

あれは西暦2000年頃であっただろうか。私の上司が、マンモグラフィの読影認定試験がある、との情報を得て、私に受けてくるよう御下命があった。何せ、無くなると思っていた検査である。今更試験受けて認定受けなくても仕事は減らないと思っていたが、御下命とあれば致し方なし、いざ試験に向かわんと意気込んでいたが、第一回の読影認定は指導医クラスの先生に受けてほしい、とのお達しだったので上司が受けることになりB-1で合格してきた（当時はA、B（B-1、B-2）、C、Dの評価でB以上が合格）。なんでも講習のあと、会場にシャウカステンがずらっと100症例並んでいて100分で読影する。机の上に置かれたシャウカステンにかけられた写真と目線の高さを同じにするために椅子に座って読影する。移動時間も含めて100分。隣の先生がゆっくり読影してたりすると、そこは飛ばして空いている症例を見なければならぬ。何とか大学の何とか教授とか、私でも名前を知っている何とか名誉教授とかも受けに来ていた、とか。100回立ったり座ったりを繰り返すものなので、スタミナ切れで足元がふらついてた何とか教授もおられて、修了式ではその先生に温かい拍手が沸き起こった、とのこと。私はその後試験を受けて、師匠を超えるのを弟子としてはばかった、わけではないが、私もB-1だった。ま、こんなもんか、マンモグラフィの認定受けてもねえ、なんて思っていたが、その後のマンモグラフィ検診精度管理中央委員会の頑張りのためか、世の中のマンモグラフィの写真からゴミはほとんど無くなった。読影認定試験も、こんなもんか、と思っていたが、私にマンモグラフィ読影の手ほどきしてくれた先輩が落ちた。私がマンモグラフィ読影の手ほどきをした後輩も落ちた、私も今まで4回か5回更新試験を受けたが、1度落ちたことがある。

さて、今回また、認定更新の年が来た。コロナウイルス蔓延で認定が1年延びたが、その1年もあつという間にすぎ、北海道で3年ぶりの更新試験が行われる。今まではフィルムを100症例見ていたが、今回からなんとモニター読影での試験になった。CTやMRIはモニターで読影しているが、マンモグラフィはモニター読影の経験はない。さて、どうなることやら、というところで字数制限がきました。モニターによるマンモグラフィ読影試験の様式については忘れていなければ次回語りしたいと思います。